大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金　報告書
Outcome report

計画名 Plan	インド系プラナカンに関する現地調査およびタイでの学会発表
氏名 Name	柏　美紀
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	アジア・アフリカ地域研究研究科/東南アジア地域研究専攻/博士後期課程４年
渡航国 Country	マレーシア・シンガポール・タイ
渡航日程 Travel schedule	2024 年 5 月 9 日～2024 年 8 月 6 日

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

世界各地で民族対立が勃発し、日本では移民との共生が課題となっている。そこで報告者は、多民族国家マレーシアに到来したインド系移民のうち、地元民との通婚によって現地化したインド系プラナカンに着目して研究を進めてきた。その一環として本渡航は以下３点の目的を軸として実施する。

１．国際学会“Indian Diaspora in Asia（アジアにおけるインド系移民）”における個人口頭発表

日本学術振興会の特別研究員として、現地調査を重んじ励んできた研究の成果を、タイで開催される国際学会で発表する。発表タイトルは“Survival strategy of a minority group that does not fit into national ethnic categories: the case of Peranakan Indians in Malaysia（国定民族範疇に当てはまらないマイノリティの生存戦略：マレーシアにおけるインド系プラナカンを事例として）”である。また本学会の開催機関は、Centre for Bharat Studies, Research Institute for Languages and Cultures of Asia, Mahidol University, Bangkok, Thailand / Organisation for Diaspora Initiatives, New Delhi, India / South Asian Studies Programme, National University of Singapore である。以上の権威ある機関の関係者と、世界の第一線で活躍される専門分野の近い研究者との議論・人脈構築をする。

２．投稿論文および博士論文執筆のための追加調査

主な調査拠点は、インド系プラナカンが15世紀から根付いてきたとされるマレーシアのマラッカのG地区である。同地区は現在でもインド系プラナカンの集住・信仰の拠点として維持され、博物館、資料館、ヒンドゥー教寺院などがある。さらに、彼らの移住先であるマレーシ

アの首都クアラルンプールや隣国シンガポールでも調査を実施する。以上の拠点にある住宅や委員会組織などにおいて、聞き取り調査、冠婚葬祭の参与観察および資料収集を実施する。

また現地の研究者との議論を通して、研究を発展させる。そして論文を執筆し投稿、さらにその論文を加筆・修正して博士論文の一部とする。

祭礼の様子　報告者撮影

３．言語運用能力の向上

英語：国際学会での発表およびそのための準備を通して、英語によるプレゼンテーションやディスカッションの質を向上させる。

マレー語：報告者は学部時代から調査対象者が用いるマレー語を学習し、辞書の編纂などにも携わってきた。本渡航では調査地域の方言の学習にも励むことで、より正確で円滑な調査を実現させる。

成果 Outcome

１．国際学会 “Indian Diaspora in Asia（アジアにおけるインド系移民）”における個人口頭発表

初めての対面での国際学会の口頭発表ではあったが、次のような大きな成果を挙げることができた。まず世界の第一線で活躍される多くの研究者と人脈を構築することができた。専門分野・対象地域の近い多くの研究者との交流・議論は、日本国内では得難い、示唆に富む貴重な機会となった。さらに他の国際学会での発表や国際的なワークショップでのレクチャー、海外ジャーナルへの投稿のご依頼をいただくことができた。

また学会のために実現したマレーシアの隣国タイへの初訪問は、マレーシアを相対化して理解することにも繋がるなど、実り多いものとなった。

２．投稿論文および博士論文執筆のための追加調査

インド系プラナカンをはじめとする多くの方々にご尽力いただいたおかげで、聞き取り調査、冠婚葬祭などの参与観察および資料収集を遂行し、想定以上の情報を収集することができた。また現地の研究者らとの議論を通して、本研究を発展させるうえで重要な気づきを得ることができた。得られた具体的な成果は今後公表する論文のなかで詳述させていただきたい。

３．言語運用能力の向上

英語：国際学会での発表およびそのための準備を通して、英語によるプレゼンテーションやディスカッションの質を向上させることができた。さらに世界各国から集う研究者の用いる様々

な特徴のある英語にも触れ、慣れることができた。
マレー語：調査地域の方言の学習にも励んだことで、より正確で円滑な調査を実現することができた。さらに、様々な言語を混ぜながら会話するインド系プラナカンの日常会話も支障なく聞き取れるようになった。

学会会場内部の様子　学会運営者撮影

学会会場の外観　報告者撮影

今後の展望 Prospects for the future

今後は、本渡航を通して得られた想定以上の成果を投稿論文や博士論文の形で公表する。また学会発表を通して紡がれたご縁を活かし、他の国際学会での発表や国際的なワークショップでのレクチャー、海外ジャーナルへの投稿を実現させることで、本研究を国際的な研究として発展させていきたい。

最後にこの場をお借りして御礼を申し上げたい。本渡航に対してご支援いただいたことは、研究の大きな励みとなるとともに、日本学術振興会特別研究員の任期を終え資金繰りに苦労していた最中、より安全な交通手段や滞在先の確保などにつながり、無事に帰国することができた。心より御礼申し上げるとともに、本渡航で得られた成果を活かして今後も研究に励んで参りたい。

学会開会式の様子　Mahidol 大学公式ホームページより引用
(https://mahidol.ac.th/th/2024/indian-diaspora-in-asia/)